

加 佐

学校だより 5月号

令和3年5月1日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

<http://kasa.maizuru.ed.jp/>



新緑の候 保護者・地域の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。日頃より、本校教育にあたたかいご理解・ご支援をいただきまして誠にありがとうございます。過日の PTA 企画委員会・家庭訪問や授業参観では、保護者の皆様方一人一人の徹底した感染拡大防止へのご配慮とご協力を頂き、充実した内容にすることができました。誠にありがとうございました。



全ての子どもたちの可能性を活かす



文化親善大使委嘱式の様子

さて、本年度新たな「舞鶴市文化親善大使」として「広報まいづる」でも紹介されました、ソプラノ歌手の田中彩子さんの委嘱式が18日に行われ、本校合唱部員も同じ舞台に上りました。ホールのどこに座っている観客をも魅了する、素晴らしい演奏を会場で一体となって確かめることができました。

舞鶴市出身の田中さんは高校卒業後に単身、音楽の都ウィーンに渡り、めきめきと頭角を現し4年後にはスイス ベルン州立歌劇場にて日本人初・史上最年少のソリストデビューを飾るなど、ヨーロッパを中心に華々しい活躍を続けていらっしゃいます。

就任のご挨拶をお聴きして印象に残ったのは、芸術を通じた社会貢献活動にも熱心に取り組まれている田中さんのお人柄です。道を究める方のお話は、ためになります。

「**困難な環境の中でも、文化を大切にす**る国の未来は明るい。」と、世界的な新型コロナウイルスの蔓延下、文化・芸術にまで手が回らなかつたり切り捨てる状況もある中で、全ての国民が多様な文化・芸術に触れてそれらを尊重し、心が豊かになることの大切さについて述べられました。「文化」を「親」に替えると、古く孔子が「親孝行することが、延いては国の泰平につながるよ」と論じた中身と重なるなあと感心しながら聴きました。続いて「**自信をもつことはとても大切**」では、世界で活躍する声楽家として自信の裏打ちとなる日々の鍛錬は言うに及びませんが、「自分の才能を信じよう」「最初からハードルを下げない」というメッセージからは、高みを目指し夢の実現に挑み続ける方々に共通した強く・しなやかな心構えが伝わりました。舞鶴市文化親善大使への就任を機に、「歌声」を媒体とした子どもたちへの田中さんからの、多彩なアプローチが期待されます。加佐の子どもたちも負けてはいられません！

保護者・地域の皆様方の、変わらぬご支援をよろしくお願い申しあげます。くれぐれもお体を大切に、どうぞご自愛ください。



舞鶴市立加佐中学校 校長 福本 浩介 教職員一同

より良い学校教育で、より良い社会をつくる